

えにわ まちづくり通信

ENIWA
MACHIDUKURI
TSUSHIN

Vol.1

日本最大の試練 3.11 東日本大震災

私たちにできることは何か
心をひとつにして

被災地のことを考えよう

戦後、何もないところから
復興と発展を遂げた日本。
国民が食うや食わずの時に、
義務教育を3年間延長して
全国に中学校を建てました。
それが、奇跡の発展の
原動力になったのです。
危機の時こそ、苦しい時こそ、
未来へ投資をするのです。



子どもが元気なまちに未来がある!



後援会活動資料

子どもの未来をつくる会

〒061-1373 恵み野西1丁目23-4 / 「てぶくろ」裏手
電話 0123-37-4352 ・ 0123-25-8122

Eメール inosan@cello.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/ino/inosun>

人の基礎を 育てる「遊び」

私たちの子どもの頃はどうか。朝から晩まで遊びました。まわりに子どもたちもたくさんいました。

この遊び時代が、社会性やコミュニケーション能力など、人間としてのあらゆる発達的基础を育てました。

しかし今、子どもたちの成長に一番大切な、『遊び体験』が失われています。ここに我が国の子育ての最大の問題があります。

冒険公園を

つくろう！

おとなのサポートの中で子どもが外で思う

子どもものの発達に 遊びは不可欠！



存分遊べる場所、それが『冒険公園』です。山を崩したり、穴を

掘ったり、隠れ家を造ったりします。経験豊かな高齢者やボラン

ティアも協力します。

親子で参加する乳幼児から、小学校高学年の、本格的な外遊びを実現します。

プレイセンター を全国発信！

プレイセンターは、これまでの子育て支援の考え方を大きく変えました。

自由に思いつきり遊ぶプレイセンターは、子どもたちの笑顔とお母さん達の生きる力を引き出します。

プレイセンターを全国発信し、全国の子育て世代と子どもたちの未来に、恵庭の経験を役立ててもらいたいのです。

子どもの居場所、

児童館の充実を！



児童館は子どもの遊びの拠点施設です。遊びは、子ども人格の発達を促すために、欠かすことができません。その教育効果を、他で補うことができないのです。子どもたちは遊びを通して、考え決断し、行動し責任を持ち、自主性・社会性・創造性を身につけます。遊びには、子どもの成長に必要な、自立教育プログラムが組み込まれているのです。ところが、私たちのまちには児童館が1カ所しかありません。それも40年以上も前の老朽化した建物です。子どもたちが、放課後や休みの日に、のびのびと遊ぶことができるまちを実現したいのです。

日本には、70万人の引きこもりの人がいます。その予備軍は155万人です。そして、引きこもりが一番多いのが、不登校などによる10代ではなく、30代だといつのです。

その原因は、子ども時代の遊び経験が少ないことによるコミュニケーション不足と指摘する学者もいます。幼児期の遊びが、子どもの発達に不可欠であるばかりではなく、人の生涯を支える基礎になっているのです。

●プレイセンターは、私が私に戻れる場所。毎朝、大変だけれど、来るのが一週間の楽しみです。

●プレイセンターで、子ども



NZのプレイセンター

●プレイセンターは、親と子どもが思いっきり笑顔で楽しめる、とても雰囲気の良い場だと感じます。

●子どもの遊びのために来なきゃと思っていたが、何回か行って知り合いが増えてきたら、自分が来たい場所になっていた。そうなる、係や委員にも関わりたいと思える。

が「初めての体験」をたくさんでるので、目の輝きが違います。

●親子ともに成長したと感じています。ここに来ると、一人ではないんだという気持ちと、居心地の良さの中で遊べる喜びがあり、欠かせない場所になっています。

●親も友達もそばにいないので、居場所が出来て良かった。ここに来なかつたら2人で引きこもっていたかも。

「プレイセンターは恵庭の宝」 利用者への声・こえ

●引越して来たばかりの私にとって、とても心強い場所です。プレイセンターで遊んでいるうちの子の顔は、とてもイイ顔をしています。親子で成長していける場所なあと思いました。

●自分の育児にこりかたまらずに周りのいい意見を吸収して、育児にゆとりが生まれました。

●内弁慶の我が子だが、家と同じように安定して遊んでいる様子に、すごい所だと思います。

●子育ては大変なだけと思っていましたが、プレイセンターに来るようになって、子どもを見る目が変わりました。

●恵庭のプレイセンターで、たくさんのお親子がともに成長していると実感している。これからはどんどん独自に進化できると思う。



NZのプレイセンター

ほかのシステムとは違う。ほかの地域のママ友に自慢している。

●とても居心地のいい場所なので、私にはとても励みになるし、ホッとできることで、とても好きだ。

●毎回すぐく楽しそうに遊んでくれて、私も楽しく参加させてもらっています。午前中たっぷり遊べるせい、午後の昼寝もぐっすり、とても良いリズムが出来てきました。

●何年も経って、プレイセンターで沢山の大人と関わって育った子どもが、他の子どもたちと違う成果が出るのを楽しみにしている。

●親子で遊んで、親子で成長していけるのが、他とは大きく違う。



地域が担う体験学習

体験学習は、地域のおとなや高齢者もいっしょに汗を流し、子どもの豊かな心をしつかり育てる経験になります。

一週間、公共施設に宿泊して学校に通う通学合宿、異世代交流のコミュニケーションスクール、川の自然体験、農業体験、子育て体験、ミュージカル活動など、子どもの年齢や成長に合わせた体験学習を推進します。学校と地域と家庭がつながりを深めるまちづくりを進めます。

を支える地域力



子育て

- 読書が活発な、子育ての楽しいまちづくりをすすめてみましょう
- 乳幼児期の、遊び体験豊かなまちにしましょう
- 外遊びの冒険公園を実現しましょう
- プレイセンターを全国発信しましょう
- 修学前教育や保育の充実したまちにしましょう

子どもが元気なまちには

未来がある！

恵庭モデルに胸を張れ！

「恵庭の子どもたちの学力は、確実に上がってきている」「読書の効果は大きい」小学校の校長先生から、こう聞きました。学校図書館の成果です。

地域の人も協力を感じません。学校では毎朝、朝読書をしていきます。上級生が下級生に読み聞かせをしたり、校長先生もです。ほかのまちにはない、恵庭モデルを発展させます。

フィンランドに学べ！

北海道は、学力も体力も日本最低。本当に残念なことです。

詰め込み式で学力を伸ばすことには賛成できませんが、基礎学力を子

「議会改革」が不可欠！

片山総務大臣がかつて、ほとんどの地方議会では、結論を決めてから試合をする八百長、シナリオを決めて読む合う学芸会をやっている、と言いました。

議会で、議論をして物事が決まっていくのが本来の議会制民主主義です。



そのためには、議員の質問に対する市長や職員の間問権や、議員相互の自由討議の推進、議会活動の市民へのオープン化などを盛り込んだ議会改革が必要です。一つの会派で何でも決められる一人勝ち議会は、闊達な議論を妨げ、利権の温床にもなりかねません。議員の口利きも厳しく監視すべきです。

子育てと教育を

教育

- 地域が、学校や教師を支えるまちにしましょう
- 学校図書館を、生きる力や学力向上の基礎にしましょう
- 学校を中心に、地域が担う体験学習のまちにしましょう
- 遊びの拠点施設、児童館を計画的に設置しましょう
- 学校と地域や家庭がつながって、恵庭の教育を進めましょう



どもたちにしっかりつけるのは、私たちおとなの責任です。

フィンランドは、地域が教師や学校の負担を軽減するチームをつくり、支えています。

落ちこぼれを出さない努力を徹底し、学力世界一を実現したのです。

子育ては地域の課題！

今の日本は、育児水河期。子どもも息を詰まらせて生きる時代です。

恵庭の3歳未満の子どもたちは、約9割が在宅です。家の中で、母と子どもだけで暮らしている姿が目に見えびます。大切な乳幼児期の子育てが、孤立した密室のなかで行われているのです。

先進事例には、恵庭の問題解決のヒントがいっぱいあります。



29歳で教育大臣になり、フィンランドの教育改革の先頭に立ったヘイノネンさんと(2007年9月)

これは個人の問題ではなく、まちや地域が解決すべき課題です。支え合う豊かな社会をつくるために全力を注ぎます。



市役所の 非常勤・臨時職員の 待遇改善を

市役所で、低賃金で昇給もボーナスもなく、雇用も不安定な臨時・非常勤職員が増えています。

非常勤・臨時職員の多くは、責任のある仕事を任されています。それでも年収は130〜180万円程度です。市は、職員数適正化計画で正職員を減らして来ましたが、その分、臨時・非常勤職員の役割が大きくなってきています。

臨時・非常勤職員の待遇改善は、行政サービス・市民サービスの向上のためにも必要なことです。



まちづくりの灯をつなげよう!

おとなも子どもも、じいちゃんもばあちゃんも まちはみんなの住みか



ささ 支え合い、助け合うまちづくりを!

恵庭は『花のまち』『読書のまち』『子育てのまち』として全国に知られるようになりました。

まちづくりは、みんながよく話し合い、力を合わせて立ち向かって

いく活動です。そこに、支え合う地域社会が生まれます。

これは恵庭の大きな魅力で、今と未来への私たちの宝物です。

自分の住むまちに愛着を持ち、子どもたち

花を愛するまちづくり!

恵庭で、花を愛するまちづくりが広がっています。

平成16年に恵み野が、国土交通省の都市景観大賞の最優秀「美しいまちなみ大賞」に選ばれ、花のまち恵庭は全国区となりました。

花には、世代を超えて

が、このまちに帰って来たいという思いの源となるのです。

私は、これまでの行政マンとしての経験を生かし、まちづくりの灯を育て、次代につなげることに力をつくします。

人と人をつなげ、地域に活力を育



てる力があります。地域が顔と顔でつながり、一人ひとりがかけがえのない地域の宝になる、そのようなまちづくりに力をつくします。



- 一に家族、
- 二に友だち、
- 三にわが街、

これが人生のすべて

井上ひさしが、みんなで見つめたまちをつくらせている、イタリヤの小都市ボロニヤを書きました。何かと言えば、志を持つ者が集まって協同組合を作り、みんなで難問を解決していく素敵な街の話です。

女性の役割を重んじ、高齢者やおとなが知恵や力を出し合い、まちの景観を大切に。恵庭のまちづくりとよく似ています。家族と友人とまちは、私たちの人生になくはならない舞台であり、まちづくりは人生の大切な一部なのです。

読書でまちづくり！

「ほら、読んであげると本の絵にじっと見入っているでしょ。ちゃんと興味を示しているんですよ」

毎月行われる9ヵ月児健診で、絵本がプレゼントされます。『ゆりかご会』の方々が、絵本の読み聞かせをします。

恵庭は、全国に先駆けてブックスタートを始めました。読書体験は子どもたちのコミュニケーション能力や、考える力を育てます。

恵庭は、全道初の試みで、全小・中学校に学校図書館司書がいます。



す。子どもたちは驚くほど本を読むようになりました。読書や読み聞かせの市民活動が協力をして、子ども読書を支えるまちをつくります。

経済活性化・高齢者福祉の切り札

札幌には、1,300人の保育所待機児童がいまいます。働かなくても保育環境整備が遅れ、困っている人がこんなにいるのです。



恵庭は保育環境も整い、子育ての環境が良く、札幌の職場にもとても近いのです。

子育て世代は働き盛りの世代。仕事をし、買い物をし、教育費や住宅費、家を建てたりと、盛んな経済活動もします。子育て世代が増えると、まちには活気があふれます。高齢者福祉を支えるマンパワーや予算も増え、バランスの良いまちの運営が可能になります。住環境や子育て環境は、まちの大きな魅力であり、均衡の取れた発展の基礎になります。

「東北関東大震災」に支援を！

このたびの大震災に、私たちはとても心を痛めています。



全て国民は被災者のため、心をつとにして、自分ができることがないだろうか、と考えています。

恵庭も、自分たちのことは我慢してでも、何ができるか考えるときです。

規格外野菜を収穫し被災地に送る、避難所の子どもたちに絵本を送る、読み聞かせや遊びボランティア、教育ボランティアを派遣するなど、恵庭の地にあった知恵を絞るのです。

遊びや学習は、傷ついた子どもたちの、心のケアにとっても役立ちます。そして子どもの笑顔は、被災地復興の力になります。

その動きは、必ずや他の町にも広がっていくと信じています。

●これからの恵庭を支え、つくり出すのは子どもたちです。その子どもたちのため、そして子育て世代のための政策を、実行力と実績のあるいさんなら実現できると信じています。

花だけではなく、子どもも主役になれる街・恵庭になるように応援しています！



貞広知可／主婦・専門学校講師

●子どもたちのことを第一に考え、経験を生かし、みんなが憧れるまちづくりに、猪口さんは一生懸命取り組みます。

子どもの笑顔あふれる恵庭市にするために、猪口さんを推薦します。



平井立／読み聞かせボランティア

●これからは、子育てと老人の福祉・医療との運動が必要な時です。

正しいことや間違いが議論されずに、数によって決まるのでは良い結果が生まれません。正しいことを言う人が悪い人で、いい加減に合わせる人が良い人では、世の中がだんだん悪くなるのではないと思います。

子どもの教育には、空き教室を使って、英語や韓国語教室をするとか、知恵を使って工夫することが必要です。

そのために、正しいことを代弁してくれる猪口信幸さんを推薦します。ぜひ、頑張ってください。 秋沢教達

●子育て対策のブロ、猪口信幸くんを推薦します。

猪口信幸君と私は、恵庭市

役所まちづくり研究会などの活動を通じて、ともに戦ってきた同志です。とにかく行動力抜群で、恵庭が子育て行政で注目を浴びているのも、その手腕によるものです。

頑張れ、いのさん！ 「待ってました！」

いま地方自治体は、首長と議会という二元代表制の矛盾が露呈し、特に議会の存在理由が問われています。猪口くんの、抜群の行動力に期待します。

近藤哲夫／男声読み聞かせ隊

●猪口さんとの出会いは、もう25年前になります。お互いに自治体職員として、まちづくりに議論を交わしました。

その時から教育に対する思いがあり、特に社会教育の重要性を語っていたことを、今も覚えています。

子育てと教育を結びつけたまちづくりに対して、恵庭市での実践と情報発信を期待しています。

猪口さん、頑張れ！

二七〇町長／片山健也



< いのさんのプロフィール >

【教育への夢 100年の教育一家】

祖父 屯田兵として現在の滝川市に入植
日清・日露の戦争に従軍
祖母が農業・祖父は小学校教師
父 小学校教師（一時期母も教壇に）
妻 小学校教師（今春恵み野小学校退職）

【猪口信幸（いのぐちのぶゆき）】

1950年 妹背牛町生まれ
1975年 北海道教育大学札幌卒業
1976年 同大学『言語治療』専門課程修了
釧路市役所入庁
1981年 恵庭市役所入庁
2011年 恵庭市役所退職

●趣味は、旅行。夫婦で出かける旅行が好き。好きな本は「老人と海」で、この作品の舞台となった漁村とヘミングウェイ行きつけのバーへ行ってみよう。



【活動】

- 自治体学会（設立時からの会員）
- 北海道自治体学会（同）
- 恵庭市役所まちづくり研究会
- 田舎クラブ（地産地消運動）
- 発達研究会（京都）
- 日本プレイセンター協会理事

【職歴】

福祉を28年間／高齢者・障害児・女性・子どもの福祉、保健・医療など。「言語治療」の専門家として、全国的な活動も。

教育を7年間／社会教育、学校教育、図書館、子ども家庭課長で退職。